

独居高齢者と地域社会との関連性に関する研究 高齢者が自立できる社会形成に関する研究 その4

正会員 ○久野 貴行*2
 正会員 友清 貴和*1
 正会員 佐藤 洋一*2
 正会員 山下 剛*2

1. 研究の目的と方法

独居高齢者を取り囲む環境の違いにより、どのような生活スタイルの相違が生じているのか、そこにはどのような要因が作用しているのかを明確化するため、平成4年より本年にかけて、独居高齢者の生活実態調査を、鹿児島市、入来町、指宿市、薩摩町の4市町で行った。【表1】

【表1】調査地域及び調査結果の状況

鹿児島市 鹿児島県の県庁所在地で、総人口1536,752人、総面積289.42km ² であり、鹿児島県の経済、政治の中心地として発展した都市である。					
高齢者の状況 高齢者人口159,004人 高齢者世帯数41,831世帯 高齢化率11.0% 独居高齢者数11,481人 独居男女構成比17.0					
独居高齢者の状況		65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上
調査結果	男性	488人	358人	389人	435人
	女性	3,202人	2,778人	2,191人	1,640人
調査結果 65~69歳 70~74歳 75~79歳 80歳以上					
52人	男性	0人	2人	2人	3人
	女性	9人	16人	8人	12人
指宿市 総人口132,008人、総面積77.98km ² の都市で、温暖な気候、開門岳、池田湖など自然条件と相俟って、観光地として発展した都市である。					
高齢者の状況 高齢者人口15,976人 高齢者世帯数4,184世帯 高齢化率18.8% 独居高齢者数1,457人 独居男女構成比17.0					
独居高齢者の状況		65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上
調査結果	男性	46人	47人	52人	67人
	女性	286人	343人	320人	296人
調査結果 65~69歳 70~74歳 75~79歳 80歳以上					
51人	男性	1人	1人	5人	6人
	女性	3人	12人	16人	7人
入来町 総人口6,707人、総面積72.38km ² の山林に囲まれた町である。農業が零細なために生活資金を農業以外に求める以外にない状況にある。商業は広域的市町村圏に吸収されている。					
高齢者の状況 高齢者人口11,606人 高齢者世帯数1,098世帯 高齢化率23.9% 独居高齢者数313人 独居男女構成比17.7					
独居高齢者の状況		65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上
調査結果	男性	14人	8人	11人	14人
	女性	79人	76人	61人	50人
調査結果 65~69歳 70~74歳 75~79歳 80歳以上					
48人	男性	0人	4人	1人	3人
	女性	10人	18人	9人	3人
薩摩町 総人口5,287人、総面積79.77km ² の、昼夜の気温差の大きい大陸性の気候をもつ町である。主要産業として農業があり、総戸数1,891戸に対して、農家戸数は1,034戸を占めている。					
高齢者の状況 高齢者人口11,364人 高齢者世帯数996世帯 高齢化率25.8% 独居高齢者数269人 独居男女構成比15.0					
独居高齢者の状況		65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上
調査結果	男性	14人	9人	7人	5人
	女性	62人	57人	72人	43人
調査結果 65~69歳 70~74歳 75~79歳 80歳以上					
97人	男性	1人	6人	2人	0人
	女性	11人	33人	21人	23人

※独居男女構成比は女性を100としたときの男性の比である。

そこで本編においては地域別にみられる特徴的な現象の根底にあるメカニズムの内部因子をみいだすことを目的としている。

調査地域別に特徴がみられる項目を第2章で明確化する。第3章ではその特徴に関してさらに別の項目とのクロス集計を行い、それが地域の特徴なのか、独居高齢者全般の特徴なのかを明確化する。第4章では、第2章と第3章とを比較分析し、地域特有の現象を支える内部因子を見いだす。

2. 分析1

調査地域と各調査項目をクロスし、特徴的な項目について分析考察を行う。

2-1. 子供との対面周期について

鹿児島市、指宿市の独居高齢者は、子供と短周期に対面している人の割合が、入来町、薩摩町の独居高齢者の場合に比べ高い。

逆に入来町及び薩摩町の独居高齢者は、子供と長周期に対面している人の割合が、鹿児島市、指宿市と比べ高くなった。【図1】



【図1】4市町別にみる子供との対面周期

2-2. 独居の理由

子供と生活しない理由を「独居の理由」として類型し、分析を行った。【類型は前編表Ⅲを参照】

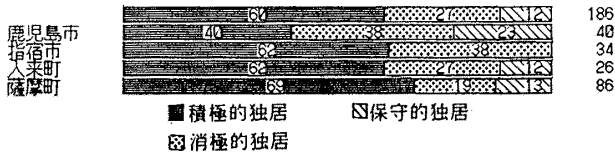
まず、積極的独居である人の割合が鹿児島市の場合、他の3市町に比べかなり低い。

次に、消極的独居である人の割合は、鹿児島市及び指宿市の独居高齢者の場合、同値を示し、入来町、薩摩町の順に消極的独居である人の割合が低くなる。

保守的独居である人は、指宿市では見受けられな

*1 鹿児島大学助教授・工博 *2 同大学院生

った。【図2】

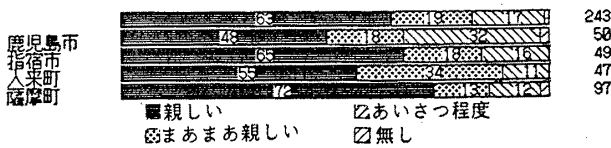


【図2】4市町別にみる独居の理由

2-3. 隣人関係について

隣人関係は、「親しい」「まあまあ親しい」「挨拶程度」「交際なし」の4項目で回答を得ているが、「親しい・まあまあ親しい」とした人を積極的交際、「挨拶程度・交際なし」とした人を消極的交際とし、類型で分析をしている。

鹿児島市の場合、隣人と積極的交際である人の割合は、他の3市町に比べ低く、逆に隣人と消極的交際である人の割合は他の3市町に比べ高い。指宿市、入来町及び薩摩町の場合、隣人と積極的交際である人の割合は、3地域同様の結果を得ている。【図3】

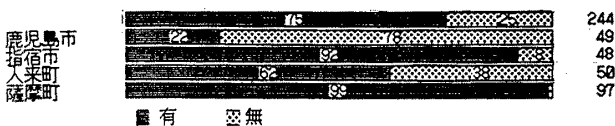


【図3】4市町別にみる隣人関係

2-4. 行政からの福祉サービスの提供について

行政からの年金・恩給以外の福祉サービスを受けている人の割合は、農村的性格¹⁾の強い薩摩町、入来町の順で高く、鹿児島市でもっとも低くなった。【図4】

これは、高齢者人口が多くなるほど、行政の福祉サービスが、全ての高齢者を対象に提供することが困難になることを示す結果ではないだろうか。



【図4】4市町別にみる福祉サービスの利用状況

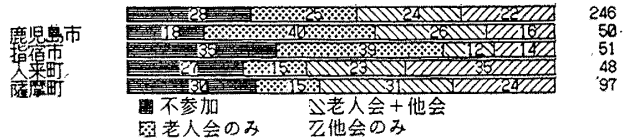
2-5. サークルへの参加状況

サークルへ不参加である人の割合は、鹿児島市、入来町、薩摩町、指宿市の順に低い。【図5】

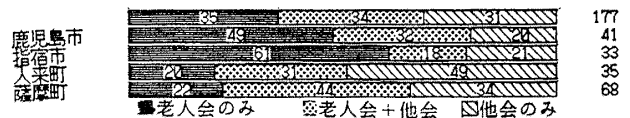
次にサークルに参加している人の内容を、老人会と

それ以外のサークル（他会）とに分類し比較した。

都市的性格をもつ鹿児島市、指宿市においては老人会を主体としてサークル活動を行っている人の割合が高く、逆に農村的性格の強い入来町・薩摩町においては他会を主体としてサークル活動を行っている人の割合が高くみられた。特に入来町においては老人会に参加する人の割合が低い。【図6】



【図5】4市町別にみるサークル参加状況



【図6】4市町別にみるサークル参加の主体

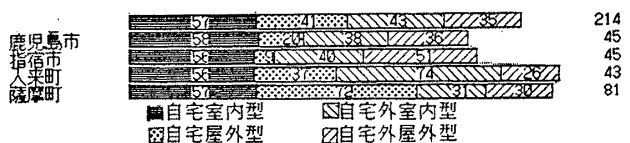
2-6. 趣味・生きがいの内容について

「趣味・生きがいがある」と回答した人で、その趣味・生きがい内容を自宅室内型、自宅屋外型、自宅外室内型、自宅外屋外型の4カテゴリーに類型し、分析考察を行った。【表2】

指宿市においては、自宅外屋外型が高く、逆に自宅屋外型が低くなっている。入来町においては自宅外室

【表2】趣味・生きがいの内容類型

自宅室内型		自宅屋外型		自宅外室内型		自宅外室外型	
洋服、和服、手芸	39	読書、雑、観劇	81	習い事、サークル	50	スポーツ	37
友人、子供との交際	28	その他	6	温泉	13	旅行	10
テレビ、ラジオ	10			宗教	9	散歩	8
読書、新聞	9			その他	15	その他	16
釣り、俳句、集まり	9						
その他	26						



【図7】4市町別にみる趣味・生きがいの状況

内型が高くなっている。薩摩町においては、自宅屋外型が高く自宅外室内型が低くなっている。地域別で異なった結果が得られた。【図7】

3. 分析Ⅱ

前節の単純クロスにより、子供との対面周期、独居の理由、隣人関係、サークルへの参加状況、趣味・生きがい等において、地域的な相違がみられた。【表3】

そこでさらに各地域毎に、上記の項目と他の調査項目とのクロスを行い、それらのクロスが、地域的を差に関連しているの可否かを検討した。

【表3】4市町村にみる主な地域差

調査項目	鹿児島市	指宿市	入来町	薩摩町
子供との対面周期	対面が短周期である人の割合が高い		対面が長周期である人の割合が高い	
独居の理由	積極的独居の割合低い 消極的独居の割合高い 保守的独居の割合高い	積極的独居は平均的 消極的独居の割合高い 保守的独居がない	積極的独居は平均的 消極的独居は平均的 消極的独居は平均的	積極的独居は平均的 消極的独居は平均的 消極的独居は平均的
隣人関係	積極的交際の割合低い	3市町村同様な傾向がうかがえる		
福祉サービス利用状況	利用している人少ない	利用している人多い		
サークルへの参加状況	サークルに参加する人多い	不参加の割合も高い	同様な傾向がうかがえる	
サークルの主体タイプ	老人会が主体のタイプ	老人会が主体のタイプ	他会が主体のタイプ	他会が主体のタイプ
趣味・生きがいの有無	4市町村同様な傾向がうかがえる			
趣味・生きがいの型	自宅屋外型の割合少ない	自宅屋外型の割合高い	自宅外室内型の割合高い	自宅外型の割合高い
友人数	1.73人	1.65人	1.94人	1.95人

3-1. 子供との対面周期との関連クロス

まず独居理由とクロスさせる。入来町を除く3市町の特徴として、子供との対面周期が短周期である人ほど、積極的独居である人の割合は低くなり、逆に子供との対面周期が長周期である人ほど、積極的独居である人の割合が高くなる。消極的独居においては逆の現象がみられた。保守的独居において特徴的なことは見いだせない。

隣人関係とのクロスにおいて、全ての地域で、子供と短周期で対面している人の方が、隣人と積極的に交際している人の割合が高い。

親しい友人数との関係においても、全ての地域で子供と短周期で対面している人の方が平均友人数も多くなる傾向がある。

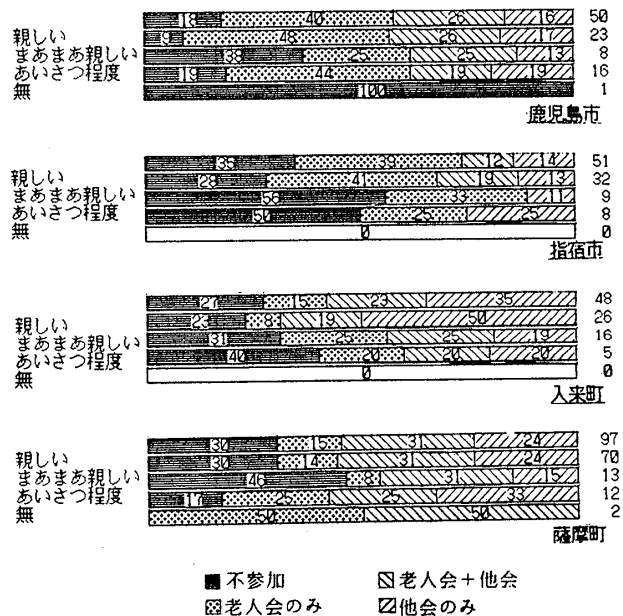
隣人関係及び親しい友人数と子供との対面周期のクロスは、全ての地域で同様な傾向がみられたことから独居高齢者の特徴として関連してくる要因であることがわかる。

3-2. 隣人関係との関連クロス

サークルの参加状況とクロスさせる。都市的性格をもつ鹿児島市と指宿市においては、隣人関係に積極的な人は、老人会を主体サークル活動している人の割合が高いという結果になった。

また農村的性格の強い入来町と薩摩町においては、隣人関係に積極的な人は、他会を主体にサークル活動をしている人の割合が高い。【図8】

これらのことから、隣人関係への積極的交際と地域内でのサークルの在り方に関連性があり、これが都市的または農村的といった地域的差をつける一要因となっていることが把握できた。



【図8】4市町別隣人関係とサークル参加状況

隣人関係に対して消極的な人とサークルとの関係に目立った特徴は見いだせなかった。

親しい友人数との関係をみると、全ての地域において、隣人関係に積極的な人ほど、平均友人数は増えている。

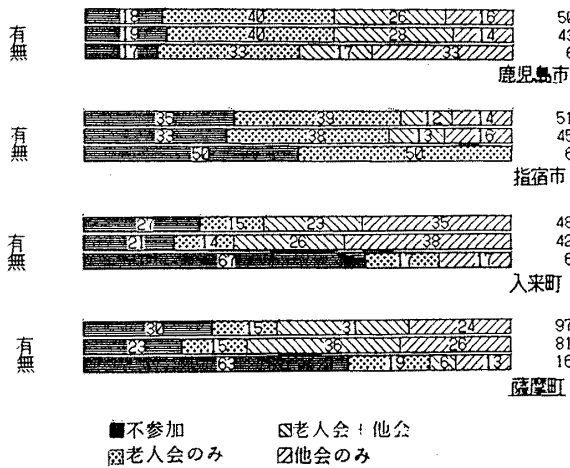
先の「子供との対面周期との関連クロス」を考慮すると、独居高齢者にとって、子供との対面周期、隣人関係、親しい友人数は、相互に関連する特性があることが明確化した。

3-3. サークルへの参加状況との関連クロス

独居高齢者の趣味・生きがいの有無の認識と集会の参加状況をクロスさせ、分析考察を試みてた。

全ての地域に関することが、「趣味・楽しみが無い」

と回答した人において、サークルへの不参加の割合が非常に高くなっている。趣味・生きがいの有無とサークル参加は、独居高齢者の特有として関連がある。



【図9】4市町別サークル参加状況と趣味生きがいの

また都市的性格の強い鹿児島市、指宿市の独居高齢者は、「趣味・生きがいがある」と回答した人も共に、老人会主体にサークル活動をしている人の割合が高い。

農村的性格の強い入来町と薩摩町においては、「趣味・生きがいのある」と回答した人が他会主体にサークル活動を行っている人の割合が高い。また「趣味・生きがいがない」と回答した人はサークルに不参加である人の割合が高い。【図9】

【表4】4市町村のクロス集計の状況

	鹿児島市	指宿市	入来町	薩摩町	鹿児島市	指宿市	入来町	薩摩町
AxB	△	△	●	△	BxF	●●	△	△
AxC	△	△	-	△	CxF	△△	△△	●
BxC	○	○	○	○	DxF	△	●	-
AxD	●	●	●	●	ExF	●○●△	●△○	○
BxD	△	●	△	●	AxG	-	△	-
CxD	-	-	-	-	BxG	△	△	△
AxE	-	●△	●△	●	CxG	○	○	○
BxE	△●	●△	●△	△	DxF	○	○	○
CxE	-	●	●●	-	ExG	△	△△	△△
DxE	-	-	○	○	FxG	-	△	△
AxF	-	△	△●	-				

A, 子供との対面周期 B, 独居の理由 C, 隣人関係
 D, 福祉サービス利用状況 E, サークル参加状況
 F, 趣味・生きがいの有無 G, 友人数
 ○: 他の3地域に共通した特徴がみられる
 △: 同じ性格(都市的, 農村的)の地域に共通の特徴がみられる
 △: 違う性格の地域に共通の特徴がみられる
 ●: 他の地域に共通しない独自の特徴がみられる
 -: 特徴がみられない

これらのことを考慮すると、老人会は独居高齢者にとって趣味・生きがいの対象となる要因とはなり得な

く、逆に他会は独居高齢者にとって趣味・生きがいの対象となる要因であることが認識できる。これが地域差に影響してくるのである。

3-4. その他の項目に関連するクロスについて

他の項目についてのクロス集計でみられた特徴を表にした。すべての地域に共通な項目は独居高齢者一般の特徴と捉えられる【表4】

4. 分析Ⅲ

分析Ⅰでみられた特徴において、分析Ⅱとの関連から、その特徴にある内部因子が見いだせる。ここでは分析Ⅰと分析Ⅱの結果を比較・分析し、地域別特徴を明確にする関連項目を見いだした。

1. 鹿児島市の特徴

子供との対面周期-福祉サービスの利用状況が影響
 独居の理由-サークルの参加状況と趣味・生きがいの内容が関連している

2. 指宿市の特徴

趣味・生きがいの内容-福祉サービスの利用状況

3. 入来町の特徴

趣味・生きがいの内容-隣人関係

4. 薩摩町の特徴は見いだせなかった。

5. まとめ

以上のような方法で、地域別にみられる独居高齢者の特徴に関連してくる要因、独居高齢者全般の特徴に関連してくる要因を究明した。しかし、これで全ての要因を究明したとは言えない。またこれらの要因が、地域的な特徴にどれだけの重み付けができるのかも検討しなければならない。

さらに研究を進め、『高齢者が自立できる社会形成』に役立てなければならない。

注記

1) 農村的性格とは、地域的に農林業を営む人と、その世帯が中心の地域社会で、昔ながらの共同体意識を強くもつ等の特質と定義し、薩摩町、指宿をその対象としている。都市的性格は政治・交易・工業などの第二次・第三次産業を基盤として成立した地域社会で、共同体意識が薄れているといった特質と定義し、鹿児島市を対象としている。指宿市は両性格を持ち得るため、準都市型性格としても良い。しかし本編では都市型性格にまとめている。